

## ヒグマ対策について

日本共産党  
高田 浩子

**問** 本年のヒグマ出没の取組みについて伺います。

**答** 副市長をトップとした「ヒグマ対策会議」の開催等庁内各部署・消防等と連携し対応策等について検討、実施しています。今年度の出没件数は8月末現在で目撃情報が72件、足跡・ふん等の発見が23件です。

例年同様ヒグマの忌避装置を20か所設置、トレイルカメラ7台を設置しています。農村地域での通報の場合は鳥獣被害対策実施隊員・滝川警察署・農政課職員が現地確認等を行っています。

**問** ヒグマによる農業被害に対する取組みについて伺います。

**答** 国の交付金を活用した電気柵購入の支援や講習会を毎年開催しています。また本年は、箱罾を設置しヒグマ2頭を駆除しています。

**問** 農業被害額について伺います。

**答** 令和元年から3年までは無し、令和4年は29万8千円、令和5年は33万3千円、令和7年は50万円

です。

**問** 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の一部を改正する法律施行後の取組みについて伺います。

**答** 今後慎重に協議を重ね、緊急銃猟が実施できる体制を整えるよう調査・研究していきます。

**問** 猟友会の報酬を増やす考えについて伺います。

**答** 1日に何度も出動の場合もあるため、今後は日当の対応について検討していきます。



ほかに手話施策推進法に伴う取組みについて質問しました。

砂川学園開校に向け  
残る学校備品について公明党  
辻 勲

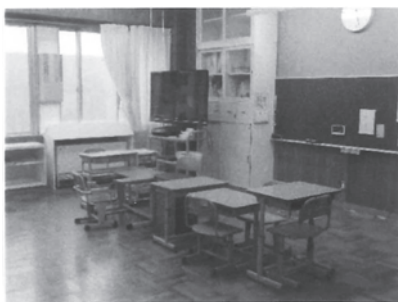
**問** 学校が閉校になると、備品の処理について課題が生じると考えます。備品や不用品の中には、価値のある資産が存在している可能性があり、こうした資源の適切な販売で、財政の健全化や持続可能な社会の形成に寄与できると思うので、砂川市におけるオンラインショップの活用について伺います。

**答** 現在、各小中学校では、児童生徒の机や椅子をはじめ、授業で使う教材・教具、図書、作業道具など、多くの備品が使用されており、来年4月に開校する砂川市立砂川学園で引き続き使用する備品は転用することとして、砂川市小中一貫教育推進委員会の各ワーキンググループなどを通じて教職員の間でも踏まえながら、転用する備品の選定作業を進めています。

各小中学校からの転用備品は砂川学園の開校前に移転しますが、閉校した小中学校に残された備品の中には、後に砂川学園で使いたい備品が生じること想定され

るため、閉校後も備品を移転する期間を設け、この期間を経て移転が完了すると捉えています。

その後、残された備品の中には活用可能なものも含まれると考えられるため、有効活用を図る観点から、他の公共施設等で希望のある場合は転用することや、町内会や市民、事業者へ無償譲渡することを検討しています。こうした取組みを行ってもなお残される不用品は、その種類や状態・量などを精査の上、オンラインショップの活用も含めた適切な処分の方



## アピアランスケア用品 購入費助成について

公正会・  
市民の声連合

沢田 広志

**問** がん患者の皆さまが、抗がん剤等の治療による副作用に伴う外見上の変化を補うため購入したウィッグや胸部補整具等の費用の一部を助成して、心理的および経済的負担を軽減し、がん患者の治療と社会参加の両立を支援する自治体が増えており、砂川市も取組みをすべきと思うが考えを伺います。

**答** アピアランスケアは、医学的・整容的・心理社会支援を用いて、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケアと定義されています。

がん医療の進歩により治療を継続しながら社会生活を送るがん患者が増加している中、外見の変化によりつらい気持ちを持つ方もいます。そのような方が、がんの治療と学業や仕事との両立を可能とし、治療後も同様の生活を維持する上で、治療に伴う外見変化に対する医療現場におけるサポートの重要性が認識されており、国の第4期がん対策推進基本計画では、

がんとの共生としてアピアランスケアについて相談支援、情報提供に取組むとされ、市立病院では昨年11月にアピアランスケア外来を設置しています。

現在、道内市町村では14市町が助成制度を設けていますが、がん患者の外見の変化は、頭髮の脱毛・鼻・耳・手指の欠損・爪の脱落・乳房の切除などあり、先行自治体の助成内容も様々であることから、ウィッグや胸部補正具等のケア用品購入費の一部助成を含め、国や他市の動向など、情報収集に努めたいと考えています。

アピアランスケア用品

がん患者

購入費の助成

アピアランスケア用品購入費助成

## 通学路における 安全対策等について

公正会・  
市民の声連合

武田 真

**問** 通学路付近にヒグマが出没しました。道内外では、学校にクマ鈴や撃退スプレーを配置する自治体もあります。義務教育学校では通学範囲も広がることから、通学路の安全対策は急務です。そこでヒグマ出没時の対応や、学校へのクマ鈴・撃退スプレーの配置等についての考えを伺います。

**答** ヒグマが出没の可能性がある場合、保護者への送迎依頼・臨時休校・警察等による巡回を実施しています。クマ鈴の携帯は有効とされています。撃退スプレーは見守り時の携帯を検討します。義務教育学校開校に向けて、校区全体とは別に旧校区ごとの安全マップを作成して安全対策を徹底します。

**問** ヒグマの出没に関しては、災害に近いものと認識しています。特別交付税等、今後も様々な財源を活用して対策をすることを要望します。

## 人口減少対策について

**問** 当市では、まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき人口減少対策を進めてきましたが、依然として厳しい状況です。実際の人口動態と目標値の乖離についてどのように分析しているのか伺います。

**答** 令和7年7月末現在の人口が1万5千89人に対し推計人口が1万6千68人となっており、乖離の原因は合計特殊出生率の差が大きく影響しています。

**問** 長期的な若者の流出も要因と考えられます。現状に基づいた見直し等を要望します。

